

「とよた連句まつり」2019作品集

令和元(2019)年十一月十日

於 豊田市福祉センター46会議室

主催 ころも連句会

公益財団法人豊田市文化振興財団

(芳梅) 小春日の一日、恒例のとよた連句まつりを、和やかに終えることができました。今年も三河を中心に三重、名古屋、岐阜など旧知の連句グループのお仲間はもちろん、この地域で連句に興味を持たれた方々も多数お運び下さり、懐かしいやらうれしいやら。ありがとうございます。そうそう、インターネットで連句をされていて今日は現実での出会いという方もありました。談笑のなか形式も新旧さまざま、楽しく巻き上げられた各座の名句迷句をご覧ください。

(藍) 昔々三河の矢作川のほとりで連句にめざめた数人が東京から東明雅先生ご夫婦をお招きしてころも連句会がスタートしました。十数年後に実現したのがとよた連句まつりの第一回なんです。先生のご講演はもちろん魅惑の「芭蕉の恋句」。付け句、尻取り、笠着など連句遊びも用意して。当時はまだ「連句」どころか「句を付ける」という言葉さえ珍しいころでしたけれど。大盛況でのべ五百人が楽しんだ二日間でした。あれから二十五年。連句会もたくさんでき、メールでもどこでも連句のできる時代になりました。でも、私たちはあのころの「伝統連句にきたえら

れつつ、ビビッドに”今”にとりくむ作品を巻きたい」という(ちよつと生意気な)合言葉を、忘れません。ほら、令和元年のきょうの連句まつりの仲間もいきいきと笑っています。連句好きな仲間といっしょだから。この作品集にあるように「今」を生き、夢をみているから。皆さんどうぞお元気で、またお会いしましょう

\*\*\*\*\*作品\*\*\*\*\*

I 連句ROCK①

「御列」の巻 捌 板倉合

冬晴れや御列を待つ旗の波 宇井希 冬

老いも若きも生を樂しむ 由川慶子

ロボット犬蔵書で床の軋む音 平羽州

なりたいものはニューチューバーだと 田中イスズ

月明り恋の闇路は照らしやせぬ 希 秋

いとたおやかに蟻螂の斧 松井文子 秋

令和元年十一月十日首尾 於 豊田市福祉センター

捌(合) 「連句ROCK」は藍先生が授業実践向けに作られた形式です。二季で月の座か花の座を入れ(両方入れてもよい)恋も入れて六句で完成です。ちょうど天皇陛下の御即位を祝うパレードの「祝賀御列儀」当日、時宜になかった発句だと思います。いろいろと話が弾んでいるうちに完成しました。

II 連句ROCK②

「冬薔薇や」の巻 捌 板倉合

冬薔薇やわすれかけてた誕生日 板倉合 冬

退職亭主と食べる寄せ鍋 都築香 冬

口も手も連句祭りの賑やかに 田中イスズ

へが医を避けてAI診断 正村有

砂漠ゆくキャラバン照らす赤い月 草笛奏 秋

タロット占いの物の音の澄む 松井文子

令和元年十一月十日 首尾 於 豊田市福祉センター

捌(合) 初参加の都築さんの温かい家庭的な句にほのぼのしていたら、美味しいものが一杯、素敵な句が一杯、おしゃべりが一杯。「楽しんでばかりもいられない進めなきゃあ」と思っているうちに、忽ち話題は展開、今の時代はAIドクター、遠隔医療だとか。砂漠のキャラバン隊だって童謡のようではないはずだと、「物の音の澄む」で満尾してほっと一息。面白い巻になりました。

III 連句ROCK③

「マチュピチュ」の巻 捌 板倉合

マチュピチュの遠く悩まし月今宵 板倉合 秋

鳥の渡りに境界は無し 原田徹夫 秋

落とし種大樹となりて水菓子に 草笛奏 全

古神の血は受け継がれ 全

花やかに初の舞台のカーテシー 宇井希 全

字手紙抜けて春が躍動 全 春

令和元年十一月十日 首尾 於 豊田市福祉センター

捌(合) 十七季では初冬は十一月ごろですが、ちよつと遊んで秋の句から始めました。仲秋の月に、雑の花やかな初舞台のカーテシーと、月と花が六句におさまっています。字手紙の春の文字が現実の世の中の春になって躍動しているような、言霊を感じさせる素敵な句で満尾となりました。皆様ありがとうございます。





\*\*\*\*  
IV 連句14猫尽くし

「まんず欠伸」の巻 捌 矢崎藍

猫百態まんず欠伸の炬燵かな 矢崎藍 冬

オリオン見上げニヤーと一声 原田徹夫 冬

女神バストス子供の楽器響かせて ドリー

ジェリー追いかけて今日もドタバタ 草笛奏

一〇〇万回生きたきのうにさよならを 奏

気付けば尻尾が二股になり 鯖

タマ三毛トラ「付度」という単語なし 徹

レクサスの下闇に光る目 石川桃里

月明かりおわわわ主人は病気です 鯖 秋

吾輩の名は今もないまま 奏

アマゾンの注文ジジと届けます ド

ゼリーみたいなチャオちゅーるだよ 桃 夏

カップルはロシアンブルー花の陰 藍 春

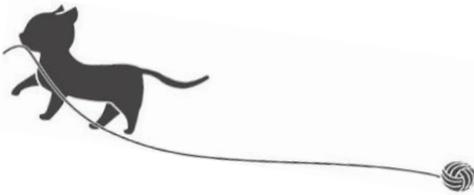
肉球ポンと春のスタンプ 有 春

令和元年十一月十日首尾 於豊田市福祉センター

捌(藍) 授業用の14句形式です。(月・花あり。四季)

発句以外は「猫」の字禁止で、各句の内容はぜんぶ猫関係です。難しい？バストスはエジプトの猫の女神で子を

あやす楽器をもつてるとか。トムとジェリー登場。百万回生きた猫はしんから愛する白猫に出会い共に逝くのでしたね。お、猫股めも出たぞ。しかも猫会議に「付度」はしないと目が光り、時事句に出たところお手柄です。萩原朔太郎に漱石と近代文学の素養もみせたところで、どっこい宅急便です。えつ、チャオちゅーるて何？今はやりのキャットフード！みんな知ってる？知ってる！若い連衆全員に負けちゃった捌きでありました。皆さんの広げる猫世界は過去未来現代のロマンでいっぱい。楽しい二時間に感謝。またお会いしましょうね。ポン！



\*\*\*\*\*

V 獅子沓冠 「ころもそれぞれ」捌 深津 明子

冬に入るころもそれぞれ香りけり 大久保志遼 初冬

七つ子詣参道を抜け 伊藤良重 初冬  
夕暮に峙へ帰る鳥あまた 寺田重雄  
手酌進んで並ぶ徳利 全

にっこりと別れし絵巻出合う旅 ロッシー

花に包まれ赤らめる頬 全 晩春

行きずりの娘胸乳を反らす春 志 三春

君のおもかげ陽炎の中 全 三春

留守電にカネを送れとメッセージ 深津明子

「おぬしも悪よのう」に汗垂れ 志 三夏

五平餅味噌は赤だと三河人 重

歴史重ねし桶は最後ぞ 口

ローマにて列車乗り換え国境へ 小野芳梅 2

美術展にはアートあれこれ 全 三秋

望の月仰ぎスマホの灯り消す 志 仲秋

秋の波寄る神々の磯 雄 三秋

令和元年十一月十日 首尾 於豊田市福祉センター

捌(明子)「獅子沓冠」は故窪田薫氏考案の形式。

獅子(四句四連)十六句です。発句を分解して、長句の冠と短句の沓に文字を配置。一連一季、四季順行、

一花一月の形式です。「ころもそれぞれ」と今日にふさわしい素敵な発句を頂きスタート。沓冠に皆さま

少々苦戦されていましたが、話も弾んだせいか、2連・3連は思いっきり弾けて、拳句に神祇を取ることが

できました。皆様のお力で、充実した作品が出来ました。



\*\*\*\*\*

VI 二文字しり取り歌仙「初時雨」の巻

初時雨猿も小蓑をほしげなり 芭蕉翁 初冬

生業立たずふさぐ北窓 大久保志遠 初冬

感わずにサキンフォンから音出して 原田徹夫

自転車こいで堤防の道 草笛 奏

満ち潮の海照らしている宵の月 小野芳梅 三秋

付き合い上手新走酌む 伊藤八郎 晩秋

組む体操キケンだという秋の風 間瀬芙美 三秋

加勢をつけて愛の告白 稲垣渥子

吐く息の近くに居たき思いあり 徹

有明湾にまた陽が上る 芙

ホルマリン漬けにしてある古代魚 ひわ

右往左往と蟻の軍団 平羽州 三夏

断交の日韓交渉再開し 荒川道子

意志を持つ人キリリ横顔 全

香り立つ湯上りの嬰抱き上げて 渥

ゲートルの詩集並ぶ図書館 道

道

勸進帳開ければ山に花吹雪

不器用なゴルフ廻るのどらか

ナオ落下傘霞の空を舞い降りる

可愛い孫年中スマホで不登校

皇后さまに小旗振りつつ

恙なくお過ごしですか文を書く

角煮ことごとホローの鍋

並べてみな路傍の地蔵よだれかけ

家計簿つけて三寒四温

恩人の枯れた姿に冬の月

ツキにいたり宝くじ当て

宛行の携帯電話旅に持つ

縛れる糸を切つて解いて

ナウ射ての振りボルトの仕草夏の宵

酔いながら見る蠍座の赤

垢落とす温泉旅行は北海道

胴上げをして祝う卒業

今日明日も行き交い混じる花筏

片道切符午後のうららか

令和元年十一月十日首尾 於豊田市福祉センター

捌(芙美) お馴染みのしり取り連句。芭蕉発句で二文字

制限です、さあ遊んで付けてくださいな。前句の尾つぽ

を知らなきゃ付けられない「どっこらしよ」と落ち着い

ている人や「じゃあ後からね」「えっもう付いたの」か

くて次々出る短冊は奔放多彩な事。脇句は北窓、サキソ

フオンの音流れ。新走に話しは弾み恋は吐く息までとは

お熱い。ホルマリン漬けの古代魚や不器用なゴルフとな

り角煮ことごと美味しくなれ。小旗を振る御世代わり

道

全 晩春

長坂節子 三春

ひ 三春

坪井真知子

州

正村 有

ひ

久野けんじ

田中イスズ

全 三冬

寺田重雄 三冬

イ

全

伊藤良重

渥 三夏

重 三夏

全

州 仲春

深津明子 晩春

近藤 無 三春

の祝いや家計簿に仰ぐ冬月。宝籤大当たり、北海道まで

の旅も一緒にできました。俳句は午後のうららかでま

たりと。とよた連句まつりはそれぞれの座へも移動して

参加できるのが醍醐味。皆さんの元気なご参加に感謝し

ています。有難うございました。



\*\*\*\*\*

VII 笠着「七部集」の巻

秋灯し恋さまざまの七部集 明雅 三秋

秘めし思ひも更待の月 郁子 仲秋

ふみ入れば白竜胆の清らかに 正村有 仲秋

紐をきりりとスニーカー履く 由川慶子

コンビニの和のスーツはよく売れて 宇井希

ひとりぼっちで岸に佇む ひわ

凧に抗ひもせず飄飄と みの虫アツパ 初冬

鳥の歌声まねる道化師 草笛奏

外輪船ハックルベリーの夢を乗せ 石川葵

肩を尖らせ空を見上げる 原田徹夫

黒髪と目元の紅の色つぼく ひ

道

猫じゃ猫じゃと下駄をからころ 長坂節子  
 月涼しシャツターチャンス待ちわびて 田中イヌズ 三夏  
 旅路の果ての焼酎の酔ひ 全 三夏  
 くり返す覚醒剤の罪深さ 全  
 優しき言葉胸に染み入る 小野芳梅  
 和気あいあい令和寿ぐ花盛り 坪井まちこ 晩春  
 トートバッグは蝶柄が好き ドリー 三春  
 ナオとんと踏みシテの登場春狂言 稻垣渥子 三春  
 人をかき分けいつも背のび 荒川道子  
 雨上がり街はきらきら輝いて 間瀬芙美  
 いつまで待ってもママは帰らぬ 慶  
 地下倉庫誰も知らない裏帳簿 有  
 嫁が君には君の名を付け 慶 新年  
 懸想文金釘流の彼に惚れ 伊藤良重 新年  
 クローン同士のウエディングベル 葵  
 園児らの黄色い帽子整列し 松井文字  
 お地藏様が見てる畦道 深津明子  
 描きかけのスケッチブック細い月 梅 三秋  
 銀杏拾へば通過するバス 石川桃里 晩秋  
 ナウ久し振り会話の弾むハロウィン 平羽州 晩秋  
 幼なじみと鍼灸院へ 神内天地  
 商店街活性化案公募して 有  
 大事の後の無事を喜ぶ 全  
 占ひ婆びたりと当たる花前線 板倉合 晩春  
 天長地久笑ふ山々 矢崎藍 三春  
 令和元年十一月十日首尾 於豊田市福祉センター46教室

句を付け合っていく文芸です。すっかり連句まつりに定着した笠着、今年は東明雅先生の発句、奥様の脇を頂き連衆の方々の個性豊かな、生き生きとした句が、次々に付いて楽しい巻になりました。ご出席の方全員の句を頂くつもりでしたが、お帰りになった方もあり申し訳なく思っています。来年も皆様のお元気なお姿をお待ちしています。  
 \*連句まつりの初回(1993年)からのご常連、みの虫アッパさんが七月に急逝されました。今回は御句と遊ばせていただきました。



連句の楽しさを皆様と共に堪能いたしました。またのお目もじを楽しみにしています。

